

総合文化センターに関する質問にお答えします！

田尻町では、駅上広場に（仮称）総合文化センターの整備を進めています。町民の皆さまの総合文化センターに関する様々なご質問にお答えするため、Q&A方式でまとめた内容についてお知らせします。



1. 総合文化センターの建設関係について P2~P4
2. 建設場所について P4~5
3. 他の公共施設（公民館・ふれ愛センター）との関係について P5~P6
4. 建設費用と財政との関係について P6~P7
5. 防災関係について P7~P8
6. 駅上広場の地中埋設物について P8~P9
7. その他について P9

○更新履歴

R5. 6. 20 掲載開始

R5. 7. 18 Q1-8、Q2-3、Q2-4を追加

1. 総合文化センターの建設関係について

Q1-1) 総合文化センターを建設する必要性と駅前広場に建設することになった経緯を教えてください。

A1-1) 田尻町立公民館は開館から約40年経過しており、建物及び設備の老朽化（屋上や外壁、開口部、サッシ等の劣化、各部屋等への漏水が多数）が進むなか、使い勝手がよくないと町民の方々からご意見を頂いており、設備の更新も含めた大規模改修を行う必要がありました。そこで、現公民館について、どのように改修・再整備すれば、これからの時代に見合った生涯学習等を積極的に展開できるのか、町民の皆様のご意見をお聞きしながら、現公民館の現状と課題を把握したうえで、改修、更新すべき内容をまとめ、必要な施設構成（目的別の部屋等）やその規模（面積）を検討のうえ想定しました。

子どもから高齢者まで各世代が集い、生涯学習を通じて共に学び、文化に触れるとともに田尻町の文化を発信するためには、1つの建物に複合的機能を有する総合文化センターを整備することが必要であると考えました。

そして、それらのことをもとに町の所有地で、敷地規模、周辺住環境や接続道路の状況、町内公共施設との連携のしやすさの観点も合わせて総合文化センター建設候補地の選定について検討しました。

現在の公民館の改修・増築による整備を行うのか、現在の公民館を撤去して同じ場所に新施設として整備を行うのか、駅前広場に整備するのかなどの3つの案について検討・評価しました。様々な角度から比較検討した結果、駅前広場に新しく複合施設として総合文化センターを建てる案が最適であるとして、議会の了承を得て、総合文化センターの整備の方向性を決定しました。

以上のような経過を経て、現在、総合文化センター整備事業を進めているところです。

(参考) 以下の内容についての詳細は、町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

・令和2年度 基本構想の策定

町民アンケートと公民館利用者団体への聞き取り調査などを実施するとともに住民ワークショップを開催して、現公民館の現状と課題を把握し、改修、更新すべき内容をまとめた結果、必要な施設内容（目的別の部屋等）やその規模（面積）を想定しました。

様々な角度から比較検討した結果、子どもから高齢者まで各世代が集い、生涯学習を通じて共に学ぶ機会、場所づくりのためには、駅前広場に新しく複合施設として総合文化センターを建てる案が最適であるとして、議会の了承を得て、総合文化センターの整備の方向性を決定しました。

・令和3年度 基本計画の策定

基本構想をもとに、公民館利用者へのアンケートや住民ワークショップなどにより町民のご意見をお聞きし、議論、検討を重ねて基本計画を策定しました。基本計画では、基本構想に定めた施設の基本理念・基本方針や施設整備の方向性に基づき、必要機能や規模、施設計画、事業の進め方等について、より具体的な内容を検討しました。

Q1-2) 総合文化センターは、いつ頃、開館し供用開始する予定なのでしょうか？

A1-2) 令和9年度に、開館し供用開始する予定です。

Q1-3) 現在の公民館と比べて総合文化センターでは、どういったことがよくなるのでしょうか？

A1-3) 新たに整備する総合文化センターでは、まず、ホール機能として、現公民館での防音設備、音響・映

像設備が悪い、舞台が狭い、椅子の出し入れが手間、土足厳禁などの課題を解消した多用途に利用でき、利用者や主催者にとって使い勝手の良いホール機能を備えます。

図書機能では、蔵書数を 12,000 冊から 50,000 冊に拡大します。利用しやすい配置を望む意見をもとに現在の3階の図書室を1階の利用しやすい場所を中心に配置します。子ども、学生、高齢者、様々な利用者を想定した閲覧スペースも備えます。例えば、親子や友達との利用を想定した、おしゃべりを許容する読み聞かせスペースや児童や学生などの自習スペースを確保します。

生涯学習機能では、更衣室やシャワーがない、サークル活動での作品を展示するスペースがほとんどない、各諸室の中の様子が分かりにくく何をしているのかわからないなどの意見をもとに、体験室での創作活動や練習スタジオでの軽運動の際に、利用者が適した服装に着替えることができる更衣室を、更衣室内にシャワーユニットを設置し、災害時の利用も想定します。

また、サークル活動での作品の展示スペースを設けます。各諸室については、活動の様子が伺えるようにしたり、完全に部屋として区切るのではなく可能な限りオープンにしたりすることで、活動内容の情報発信を促し、利用しやすく新たな発見・挑戦の場づくりを実現します。

交流・情報発信機能としては、誰もが気軽に利用でき、町や団体の取組・情報を発信・共有することによる交流の場づくりを実現するため、入りやすく集まりやすいメインロビーや飲食を許容とするカフェ・飲食スペース、活動団体の取組みの情報を発信・共有できるような情報発信スペースを設けることを考えています。

以上のように充実させた各機能を、複合化することにより、多様な活動や交流の創出、新たなサービスの提供や発信の展開を図ることができると考えております。今後、更に誰もが気軽に立ち寄りたくなり、文化芸術に触れ、参加したくなるような、新たな事業ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

Q1-4) 総合文化センターと聞くと、学ぶ施設(図書館、講演、展示など)のイメージが強いのですが、現在の公民館の大ホールでできたような、体を動かすイベント(体操とか)ができるようなところはあるのでしょうか？

A1-4) 総合文化センターには、軽スポーツなどの体を動かすイベントができるだけでなく、多目的に利用できるホールを整備する予定です。

Q1-5) 施設利用は町民だけに限られるのでしょうか？町外の方も利用できるのでしょうか？

A1-5) 町民の方のご利用はもとより、主にホールや展示室で行うイベントについては、町外の方にも積極的にご利用いただけるよう呼びかけて、本格的な催しが開催できるようにします。町民の方々に『ホンモノ』の芸術、文化に触れていただきたいと考えています。なお、駅に近いことから町内外からの有効活用と町のPRになるものと期待しています。

Q1-6) 施設は誰が運営していくのでしょうか？

A1-6) 設計、施工の段階から民間ノウハウを活用し、効率的、効果的な民間運営を目指しています。現在、その手法について調査・検討を進めているところです。

Q1-7) 総合文化センターの建設費は約 30 億円と聞きました。田尻町には大きすぎる施設ではないですか？公民館の稼働率や利用度合いを見て、それに見合った施設内容、施設規模になっていますか？

A1-7) 必要に見合った施設内容、施設規模であると考えています。

計画の策定にあたっては、質問のQ1-1 (P2) やQ1-3 (P3) でお答えしたとおり利用者団体への聞き取り・利用者アンケート、住民ワークショップでのご意見をもとに、どんな部屋が必要で、その部屋にはどのような機能が必要かを検討し、先進事例をもとに、どのくらいの広さが必要かを計算したうえで、建設費も含め設定したものです。

Q1-8) 総合文化センター建設の計画は、規模も内容も現公民館よりかなり充実したものとなっていますが、それだけの利用者があるのですか？稼働率が低くて無駄な施設と言われることはないのですか？

A1-8) 現公民館の利用状況や、各種利用団体の方からヒアリングを行い、先進地の事例を参考にし、専門家の分析も加えて需要予測を行い、本町に相応しい適正な規模・機能を整備する予定です。

総合文化センターは、ホール機能、図書機能、生涯学習機能、交流・情報発信機能などを備えた複合施設です。図書機能においては、約50,000冊の蔵書規模に拡大するとともに、閲覧スペースや利用者ニーズの高い自習スペースを確保していきます。また、カフェや子育て世代が利用しやすい空間を整備し、学生や若者、働き手の方々や子育て世代の方々など、より多くの方の利用が予想されます。さらに吉見ノ里駅に近い立地であることから通勤・通学者の方々の利用も十分期待されるところです。

今後は、たじりっち広場のようにたくさんの人に利用していただける施設になるよう、また、複合施設としての効果を最大限に発揮できるよう、事業展開・管理運営も含めて検討を進めていきます。

2. 建設場所について

Q2-1) 市街化調整区域に総合文化センターを建てれば、後継者に困っている農家の方々も助かるのではないのでしょうか？

A2-1) 令和4年6月に町が市街化調整区域に農地を所有されている方全員を対象に行ったアンケート調査結果によると「農業経営を行わない、わからない」方が約5割おられるものの、残る約5割の方は「今後も農業を継続する」と回答されています。

そのような中、市街化調整区域において駅上広場と同規模の用地を選定し買収を進めるには相当な期間を要するものと想定され、総合文化センター整備の実現が困難になると考えます。また、市街化調整区域に建設すると、建設費に対する国からの交付金は受けることができなくなり、土地の買収費に加え、建設費約30億円に対する町の負担が増加します。

Q2-2) 駅上広場を利用することができなくなった方々が、代わりに利用できる場所について、どのように考えているのでしょうか？

A2-2) 駅上広場を使用されている主な団体としては、スポーツ少年団野球部の皆様です。当団体には、まちかど広場（吉見りんくう緑地内広場）を新たにご利用いただけるよう調整し、従前からご利用の潮風グラウンドや小学校校庭なども含めて対応してまいります。また、ウォーキングをされている個人の方々には、たじりっち広場や交流広場を代わりにご利用いただけるものと考えています。

Q2-3) 総合文化センターの建設は、駅上広場ではなく、現地で建設した方がいいと提案している人がいますが、その方がいいのでしょうか？

A2-3) 令和3年3月に策定した基本構想に、その検討結果が掲載されています。現公民館の敷地に建設した場

合、必要な施設を想定すると5階建てになり、近隣住宅に影響が出る可能性があります。工事期間中（約2年）、公民館で実施してきた行事や生涯学習活動場所の確保のため仮設建物が必要となります。また、駐車場不足、防災対応などの問題が有効に解決できません。駅上広場で建設する方が、総合文化センターの各施設がより充実され、事業費を比べても大きな差はありませんでした。よって、駅上広場で建設することに決定しました。

現公民館の敷地では、土壌の有害物質が出ないという保証はありません。河口、海岸に近く、また、紡績工場跡地であり土地の利用履歴としては駅上広場と同様の条件です。また、現公民館は、津波高潮の浸水区域に当たります。よって、この場所に多額の費用を投じて新しい施設を整備することについて、慎重にならざるを得ません。

Q2-4) 総合文化センターを 駅上広場に建設すると、遠くなると言って反対されている人がいますが、どのように言えばご理解いただけるでしょうか？

A2-4) 現公民館から駅上広場までは、道路上で約750mの距離があり、嘉祥寺の海側にお住まいの皆さまはこれまでより遠くなりますが、吉見ノ里駅周辺、又は線路から山側にお住まいの皆さまは近くなります。

他の市町村と比較すると、市役所や総合保健センター、公民館などの公共施設から数キロから数十キロも離れている住民の方々も多く、例えば、隣の泉佐野市は、南海泉佐野市駅から、またJR日根野駅からも遠いところに市役所があり、車やバスで各公共施設を利用している方が住民の多くを占めています。

コンパクトな田尻町において駅上広場に公民館機能が移設されたとしても、利便性は大きく変わらないものと考えています。

なお、駅上広場に建設される総合文化センターには、たじりっちバスの乗り入れを計画しています。

最後に、駅上広場に建設する方針に至ったのは、現公民館敷地に建設するよりも住民の皆さまへのメリットがデメリットよりはるかに大きかったことによるものです。

3. 他の公共施設（公民館・ふれ愛センター）との関係について

Q3-1) 新たに総合文化センターを建てなくても、現在の公民館やふれ愛センターで文化センターの機能として十分活用できるのではないのでしょうか？

A3-1) 質問Q1-1（P2）でお答えしたとおり、1つの建物に複合的機能を有する総合文化センターの整備が必要ですが、現在の公民館では、敷地が狭いため現地建て替え・改修によって必要な文化センター機能を満足に整備することが困難であると考えています。

また、津波浸水区域内にあり、海、川、水門の近くに立地しており、災害時対応や防災上の懸念があることから、移設も含めて検討することが最善であると考えています。

ふれ愛センターは、保健福祉の観点での活用を図ることを目的とした複合的施設です。

今後、子育て支援のニーズが高まっていくことが予想されますので、エンゼル（こども園）を補完しながら子ども・子育て分野での活動・支援・交流の拠点として積極的に活用を図っていく予定ですので、総合文化センター機能の一部を受け持つ余裕はないものと考えています。

以上のことから、現在の公民館やふれ愛センターで総合文化センターの機能として分散などの活用をすることは困難であると考えられ、駅上広場に総合文化センターを整備することが最適であると考えます。

Q3-2) 保幼小中一貫教育における総合文化センター(図書館)の役割とは何でしょうか？

また、小中学生が毎日通うためには、現在の公民館での建て替えが望ましいのではないのでしょうか？

- A3-2) 総合文化センターの図書館は、蔵書数の拡大や様々な利用者を想定した閲覧スペースの確保、自習室、親子や友達との利用を想定したおしゃべりができる空間など、図書機能の拡大を図り、より多くの人を訪れることができる施設を予定しています。図書機能以外にも、ホール機能、生涯学習機能、交流・情報発信機能を有しており文化・芸術の発信拠点となる施設となります。このような施設に子どもたちが訪れ、地域の人たちや文化、芸術と関わりをもつことで新たな自分を発見したり自身の成長に繋げたりする機会が生まれます。子どもたちの能力や可能性を伸ばし、広げるためにも必要な施設であると考えています。
- 現在の公民館の建て替えも検討しましたが、さまざまな機能を有した総合文化センターを建設するには敷地規模が小さく、田尻町内外から多くの方が訪れやすい駅前広場での建設を考えています。

Q3-3) 小中学校の建て替えの時に、総合文化センターの機能も追加できないのでしょうか？

- A3-3) 現在、田尻町では老朽化した小中学校の校舎の建て替えを検討しています。施設の整備にあたっては、エンゼル(こども園)・小学校・中学校がそれぞれ一つといった本町の特色を活かした、0歳から15歳の子どもの切れ目のない一貫した教育(たじり一貫教育)が実現できる施設を目指しております。子どもたちの成長には、たくさんの人と関わる事が大事であり、学校に隣接し地域の人々が集える施設が整備されることは喜ばしいことです。ただ、限られた学校敷地においては、総合文化センターの機能を整備することは非常に難しく、子どもたちに必要な施設を整備したいと考えています。

Q3-4) 総合文化センター建設後、現在の公民館はどうなるのですか？

- A3-4) 現時点では、どうするのか決まっていません。今後、総合文化センターの供用開始(令和9年度中の予定)まで時間をかけて様々な選択肢を検討し、総合的に判断する予定です。
- 例えば、教育委員会の施設として活用するのか、教育委員会以外の施設として活用するのか、または、現公民館の建物を解体するのかなど、総合的に判断し議会議員の方々にも相談しながら決めていく予定です。なお、現在の公民館の機能はすべて総合文化センターに移行します。

4. 建設費用と財政との関係について

Q4-1) 駅前広場の整地費用に4億円もかかると聞きましたが、そんなにかかるとなれば、現在の公民館を改修した方がよいのではないのでしょうか？

- A4-1) 地中埋設物の撤去工事の予算として、約4億円計上していますが、現在のところ、約8,600万円(税込み)を見込んでいます。工事進捗において埋設物の状況に応じて工事費が増額または減額することも予想されますが、現時点では大きな変動はないものと見込んでいます。

Q4-2) 小中学校も建替えが必要だと聞きました。総合文化センターを建てて、今後その他の施設も古くなってきて維持費がかかる中で、財政的に大丈夫なのですか？

- A4-2) 田尻町はこれまで空港関連の安定した税収により、今後の公共施設等の維持及び整備を行うための財源とすることを目的とした、公共施設等維持整備基金を約45億円積み立ててきました。また、年度間の財源の不均衡を調整し、大規模な自然災害の発生や臨時突発的な事象に適切に対応するための財政調

整基金を約47億円積み立てており、あわせて90億円を超える基金を有しています。今後ますます閑空の利用回復が見込まれるなかで、更なる税収の伸びが期待されています。これらの基金を有効的・計画的に活用し、また補助金等を積極的に確保していくことで、将来への負担を最大限少なくしながら、小中学校の建て替えや総合文化センター建設などの未来への投資を着実に進めていくことが可能であると考えています。今後も引き続き、安定した財政運営に計画的に取り組んでまいります。

Q4-3) 総合文化センターの建設費用に補助金はつくのですか？

A4-3) 国の交付金約10億円の活用を見込んでいます。市街化区域のまちづくりに対する交付金ですので、市街化調整区域での事業には対象外となります。

現在、総合文化センターの交付金申請の準備を進めているところです。

5. 防災関係について

Q5-1) 避難所は、小学校とふれ愛センター、公民館が指定されていますが、まだ、足りないのですか？

A5-1) 地震被害想定では、最大1,617人が避難所生活を送るとなっています（南海トラフ巨大地震）。

現在、指定避難所4か所（ふれ愛センター・小・中学校・公民館）で避難者2,483人を収容できますが、近年は、感染症発症の状況によっては一人当たりの避難所スペースを約2.5倍広く確保する必要があり、さらに感染した方と分けて避難スペースを確保する必要もありますので、そうなると収容人数は確実に不足することとなります。

また、現在の避難所はすべて津波や高潮の浸水区域の中にあります。津波・高潮の避難場所である駅上広場に総合文化センターが建設されることにより、浸水による建物被害のリスクなしで、避難してきた人を建物内に収容できることとなり、防災上かなり有効な施設運営ができることとなります。

Q5-2) 現在の駅上広場は、避難場所の指定となっていますが、そこに総合文化センターを建設するとすると避難場所や支援物資を運んだりするヘリコプターの降りる場所、また仮設住宅の建設場所など、防災上の問題があると思われます。市街化調整区域で土地を新たに確保して総合文化センターを建設すれば、駅上広場の防災上の問題はなくなるのではないのでしょうか？

A5-2) 避難場所とは、災害が発生したときに一時的に避難できる場所のことで、駅上広場は地震や津波災害のときに避難する指定緊急避難場所となっています。総合文化センターを駅上広場に建設した場合は、建物内部や屋外の空地に避難できます。避難できる人数は、現在の駅上広場の収容人数以上を確保できるものと考えています。また、一時的な避難においても雨風や暑さ寒さ等の気候による影響が受けにくく、飲料水、食料等の備蓄品も備えられ防災対応力は強化しますので、駅上広場における防災上の問題は無いものと考えます。

また、災害時のヘリポートは、大阪府南部防災拠点など近隣のヘリポートを含め、その災害の状況に応じて最適な輸送等の活動が行われるよう指定されることとなっています。なお、町内では駅上広場とたじりっち広場が選定されています。

田尻町において、南海トラフ巨大地震で22棟、中央構造線断層帯地震では、約140棟の仮設住宅が必要になると想定しています。現在、駅上広場以外に応急仮設住宅候補地として2か所（まちかど広場と（仮称）憩いの広場）の建設候補地があり、合計で146棟の建設が可能ですので、問題はないと考えます。

以上のことから、駅上広場の防災上の問題はなく、市街化調整区域で新たに土地を確保して総合文化センターを建設する必要はないものと考えます。

Q5-3) 「総合文化センターの防災機能をより高めたほうがよいのではないのでしょうか？意義がより明確になるのではないのでしょうか？」との声も聞かれます。防災機能について、さらに検討を深める余地はあるのでしょうか？

A5-3) 総合文化センターに必要な機能と防災機能（避難所機能・備蓄品、防火水槽など）については、現在、計画段階でありますので、今後の設計において、検討を深めてまいります。

Q5-4) 駅上広場は、津波や地震などの一時避難場所に指定されていますが、総合文化センターが建設されている間は、どこに避難したらよいのですか？

A5-4) 建設工事期間中は、現駅上広場は一時避難場所として利用できなくなります。浸水区域外にある町有地や防災協力農地等を活用して一時避難できる場所の確保に努めます。地震や津波等が発生した場合の避難方法は、南海本線の線路より山側を目指して、まずは、浸水区域外へ（山の方に向かって）逃げることを優先してください。その後、一時避難所等へ避難してください。

Q5-5) 総合文化センターは、一時避難所に指定される予定だそうですが、大きな地震が発生した後も避難しても大丈夫ですか？地震による建物被害は大丈夫ですか？

A5-5) 総合文化センターは、災害時の拠点となるよう高い耐震性能を持った丈夫な建物となりますので、安心して避難していただけるものと考えています。ただし、災害とは時として想定を超えてくる事象が過去にはいくつもありました。地震によって建物被害が発生しているなど、一時避難場所として利用することが困難な場合は、屋外の広場や津波等浸水区域外に一時避難してください。津波等からの避難は、「まずは浸水区域外へ（山の方に向かって）逃げる！」を最優先に避難してください。

6. 駅上広場の地中埋設物について

Q6-1) 駅上広場で確認された埋設物(ガレキ)の撤去に要する費用について問題視されているように聞きますが、どのような状況なのでしょう？

A6-1) 埋設物は、田尻町が昭和46年に土地を取得するまでに、織物工場として使用されていた建築物を解体した際の廃材であると想定しています。コンクリート殻やレンガ殻が主になりますが、現時点では、どれくらいの量か、他にどのようなものが埋まっているのか不明です。

土地所有者である町としては、量・質ともに不明な地中埋設物について、速やかに土壤汚染物質の有無を確認し、適正に処理すべきと考えています。また、今後予定している民間事業者の募集に際して、地中障害などの用地リスクを取り除いておくことが望ましく、避難所等防災機能を有する施設として給排水設備を地中に整備することも検討している点、仮に将来別の活用をする場合であっても、支障となる可能性が高い点からも、速やかに処理すべきものと考えています。撤去に要する費用については、「建設費用と財政との関係について」の質問Q4-1（P5）のお答えしたとおりです。

Q6-2) 令和5年6月9日の町議会で、駅上広場地中埋設物等撤去工事の請負契約締結の議案が否決されたと聞きましたが、どのような状況なのでしょう？

A6-2) 質問Q6-1 (P7) でお答えしたとおり、「土地所有者である町としては、量・質ともに不明な地中埋設物等を速やかに適正に処理すべき」であることをご理解いただき、令和5年3月町議会においてその予算が議決されました。そのことを受けまして、入札のうえ請負業者を選定し仮契約を締結し、工事請負契約締結の議決を議会に求めましたが、否決という結果となりました。選定業者には何ら瑕疵はなく、「総合文化センターの建設議論に時間をかけよう」という議会の決定でした。

7. その他について

Q7-1) 総合文化センターの建設を進めていくことになって、これから具体的に設計などが進んでいくなかで、これまでの町民アンケート、ヒアリング、ワークショップなどで示された私たち町民の意見がきちんと反映されているのかどうか、確認できる機会はあるのでしょうか？

A7-1) 町広報誌や町ホームページを活用し、町民の意見がきちんと反映されているか確認できるように情報提供に努めてまいります。また、町広報誌や町ホームページ以外での情報提供についても検討します。

Q7-2) 自家発電装置より、太陽光パネルと蓄電池を考えたほうがよいのではないのでしょうか？

A7-2) カーボンニュートラルの時代です。今後の設計段階で検討していきます。

Q7-3) 駅上広場でウォーキングされている方をよく見かけます。町内には雨の日に歩ける場所がなくて不便を感じています。ウォーキングもできるような施設にならないのでしょうか？

A7-3) 本町には常時一般開放している体育館がございませんので、今後の検討課題とさせていただきます。ふれ愛センターで健康づくりとしてできないものかも含め検討します。

Q7-4) 令和5年5月11日の臨時議会で総合文化センター建設の見直しに関する決議が採択されたと聞きましたが、今後どうするのですか？

Q7-4) 決議には、法的拘束力はありませんので、採決どおりに見直しなければならない、というものではありませんが、しっかりと受け止めています。今後の議論において見直すべき部分があれば、検討していきます。ただし、過去3年間、アンケートや関係団体、ワークショップなど多くの町民の方々からご意見ご尽力をいただき、その都度議会で承認を得て、3月議会では5年度の関連予算も承認いただきました。これまでの議会決定事項はより重要なものであると理解しています。そのような認識のもと、議員の皆様をはじめ多くの町民の方々に総合文化センター建設の意義と事業推進の必要性を説明しながら、今回の決議についても反映できる部分を議論してまいります。

Q7-5) 令和5年6月9日の町議会で駅上広場地中埋設物等撤去工事の工事請負契約締結の議案が否決されと聞きましたが、総合文化センター建設は、これからどうなるのですか？

A7-5) 質問Q6-2 (P8) でお答えしたとおり、「総合文化センターの建設議論に時間をかけよう」という議会の決定でした。今後とも議員の皆様をはじめ多くの町民の皆様方と総合文化センター建設の意義と事業推進の必要性を説明しながら、議論を重ねてまいります。